

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	6項目について設定され、わかりやすい言葉で理念が表現されている。パンフレット、ホームの玄関にも掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの場面やケア会議の際、利用者のケアのあり方と理念との結び付けを行い、理念の具体的な実現に向けて意識的に取り組まれている。	○	今後とも職員研修時には常に意識化を図っていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会にも加入しており総会への出席や地域の行事（納涼祭や運動会など）や近隣の協力病院の行事などへの参加が行われている。	○	地域へホームだよりなどの広報を回覧するなどにより、地域の方々が気軽にホームに立ち寄れるような呼びかけや工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員に分担して作成しており、自己評価の意義も含めて、グループホームのあり方についての職員の共通理解が深まり、今後の改善に向けての取り組みがしやすくなっている。	○	運営者が、ホームの運営状況に関わる密度を増すことが求められる。管理者や職員との情報交換や現状認識を深め、改善に取り組んでいくためには、定期的にホームへの訪問と利用者と共に過ごす滞在時間の確保により、更なるホームの発展を検討されることを期待したい。

宮崎県川南町 グループホームあかつき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度は3回実施するなど定期的な運営推進会議の開催により、行政、関係機関、地域との連携が進み、ホームへの理解が深まると共に、サービス向上への取り組みが具体的に行われてきている。	○	
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議との関わりから相談しやすい関係が構築されてきている。	○	行政職員の研修の場やボランティアの場として、ホームを活用するなどの働きかけも行うことも検討していただきたい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回ほどの家族会の実施により、ホームの情報提供と意見交換を行っている。また、家族面会時に利用者の状況について報告を行っている。	○	献立表を毎月家族に配布していることに加え、ホームでの暮らしぶりやホームの活動状況を報告していくことが求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを実施し、家族とホームとの信頼関係作りに努力している。家族会が、ホームの草刈りを実施することを提案するなどの協力体制ができてきている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	半年ごとの職員異動が行われているが、日常的に相互のユニットの交流が図られていることから、大きなダメージは防がれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会には交代で参加している。	○	職員全員が研修会に参加することは難しい現状にあることから、復命研修を確実に実施することが望まれる。さらに、管理者にホーム運営の責任が委ねられている現状では負担が大きいため、職員が運営に関する役割を担えるように職員育成を強化していくことが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域のホームとの勉強会を実施している。	○	職員研修の方法として、他のホームでの数日従事研修を相互に行うことや関係施設の視察見学を行うなどにより、自分のホームのあり方を考える機会をつくりサービスの向上に役立てていくことが望ましい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に至るまでに、お試し期間を実施するなど、雰囲気になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を一緒に行ったり、洗濯物たたみや菜園の手入れなどを共に行っており、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる利用者に対しては、本人の意向を確認しつつ、また意思表示の困難な利用者に対しては、行動や表情の確認を行いながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	十分なアセスメントを行うと共に、家族・職員の意見を集約し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケア実施状況については、介護計画に基づいたケアのチェック表に記録されており、計画の実行が確実に把握できている。また、月1回のカンファレンスを実施し、利用者個々人の状況把握を行い、見直しが行われている。	○	業務負担の軽減を図るため、記録の簡素化の工夫が望まれる。他のホームでの記録の仕方や様式の検討などを共同で行うとさらに充実したものになると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援は基本的に家族に担っていただいているが、家族対応ができない場合など、臨機応変にホームで対応している。また、正月などの帰宅した場合でも、利用者の状況で家族が困った場合はすぐにでも対応できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の掛かりつけ医は個々人で異なっているが、利用者の認知状況の説明を行い、受診に負担がかからないよう時間的にも短時間で受診できるように配慮していただくなど、支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を尊重し、ホームでの支援の方向性を説明している。重度化、終末期の対応をしていく方針で取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の評価でアドバイスされた点については改善され、トイレの際ドアを閉めるなどプライバシーへの配慮に心がけ取り組んでいる。	○	ケアの実施の際、事前の声かけを必ず行い、ケア行動に移すことを職員全員に徹底していくことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の流れを促しつつ、本人の意向を確認しながら日々の暮らしを支援している。		

宮崎県川南町 グループホームあかつき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者・職員と一同に食事を行い、楽しい雰囲気の中、利用者へのさりげない声かけにより食事への支援が行われている。また、調理や片付けなど入居者に役割を持たせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は職員体制の問題から実施できていないが、毎日午後に入浴を実施しており、個浴にて入浴が楽しめるように支援している。入浴拒否などの場合は、利用者の状況を見ながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの生活の中で役割の持てる方については、掃除の手伝いや洗濯物干し、たたみなどを一緒に行っている。また、菜園などは利用者から野菜作りの知恵をいただきながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画などにより遠足や花見などが実施されている。散歩や買い物などの日常的な外出機会の確保ができていない現状がある。	○	職員体制の問題もあるが、ボランティアの活用を図り、一人でも多く日常的な外出ができるように改善していくことが望まれる。ホーム前の芝生に屋外休憩所を設けるなど、外気に触れることから始めることも考えられる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回評価時から改善され、鍵を掛けない状況で、職員の見守りの徹底によりケアが実施されている。		

宮崎県川南町 グループホームあかつき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により年1回の避難訓練を実施している。また、夜間の緊急連絡網を作成しており、緊急に対応できる体制を確保している。	○	災害時の対応、地域の応援体制、あるいは地域の避難場所としてのホームの位置づけなど、地域との協力体制をつくっていくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況は記録でチェックされている。特に、水分摂取の少ない利用者には、回数を増やしたり、ゼリーや果物などにより摂取できるように工夫している。	○	食事の栄養バランスを考慮するためには、職員が作成している献立を行政や医療機関の栄養士などからアドバイスをすることも必要と思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの立体的な彩り豊かな装飾作品が飾られており、明るい季節感を採り入れた空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況にもよるが、若干居室がさみしい感じにも見受けられる。	○	日常生活の居場所としての居室の有り様を考え、安心できる空間づくりの工夫が望まれる。他のホームの取り組みを参考にされることを期待したい。また、継続して家族への声かけもお願いしたい。

※  は、重点項目。